

## 平成 29 年度 第 1 回環境水理部会 議事録 (案)

日時： 平成 29 年 9 月 13 日 (水) 12:00~13:30

場所： 九州大学伊都キャンパス・ウエスト 2 号館 910 号室(第 74 回土木学会全国大会)

参加者：**部会長**：矢島 (島根大) | **副部会長**：矢野 (九州大) | **幹事**：田代 (名古屋大), 大槻 (土研) | **委員**：赤松 (山口大), 石塚 (香川大), 梅田 (東北大), 大石 (土研), 大橋 (玉野総合コ), 川村 (寒地土研), 工藤 (いであ), 齋田 (鹿児島大), 櫻井 (土研), 重枝 (九工大), 新谷 (首都大), 鈴木 (電中研), 鈴木 (八千代エンジニアリング), 田井 (九州大), 竹林 (京都大), 都築 (リバフロ), 鶴田 (建設技研), 鶴田 (土研), 中山 (神戸大), 中山 (国環研), 長尾 (産総研), 細川 (港空研), 湯浅 (パシコ), 横山 (首都大), 吉川 (北見工大) | **オブザーバー**：赤堀 (愛知工大), 井上 (港空研), 井芹 (西技), 乾 (山口大), 今村 (電中研), 大久保 (滋賀県立大), 太田 (電源開発), 片岡 (東京理大), 小林 (京都大), 清水 (日本工営), 角 (京都大), 土屋 (中央大), 二瓶 (東京理大), 山原 (中電技術コ), 牧野 (東北大), 宮本 (芝浦工大)  
(出席者下線, 計 25 名. 敬称略. 新体制に従って記載)

### 1. 報告事項

① 環境水理部会の部会員の活動アンケート結果について (矢島部会長)

活動に関する内容について, 資料を元に説明がなされた.

② 水工学委員会報告 (矢島部会長)

資料に従い報告がなされた. 特に以下の点について確認された.

・水シンポジウム (10/30-31@沖縄) が開催予定.

・JSCE2015 の自己評価について, 環境水理部会 H28 年度は「ランク A」.

竹林委員より, JSCE2015 の自己評価については震災に関連して放射能についての研究の実施の有無を記述する欄があるため, 実施している場合には今後報告するよう依頼された.

・第 63 回 (H30 年度) 水工学講演会 (北海道) の日程について, 11 月頃開催を第一案として調整中.

・水工学論文集の投稿締め切りが例年より 1 日早い (9/29).

③ H29 年度研究集会@鹿児島

研究集会幹事の齋田委員 (鹿児島大学) (代理: 大槻幹事) より, H29 研究集会 in 鹿児島について, 資料をもとに開催報告および会計報告がなされた.

④ WG 活動報告

各 WG の活動について, 資料を元に報告された.

・閉鎖性水域研究 WG (矢島): 11 月 7 日松江で応用生態工学会とのジョイントシンポジウムを開催予定.

- ・ 温暖化適用 WG (矢野) : レビュー論文の執筆を目指して勉強会を開催。外部資金の獲得についても視野に入れている。
- ・ 動的総合土砂管理に関する WG (竹林) : 本年度はイベント等はできていないが今後も継続して活動したい。
- ・ 樹林化 WG (宮本・赤松) : WS を帯広で実施 (参加者 28 名)

## 2. 審議事項

### ① 部会員の変更・補充について (矢島部会長)

以下のように委員およびオブザーバーの追加, 変更がなされた。

<オブザーバーから委員へ>

川村里実氏 (寒地土研), 細川真也氏 (港湾空港技術研究所), 吉川泰弘氏 (北見工業大)

<委員からオブザーバーへ>

宮本仁志氏 (芝浦工業大), 井上徹教氏 (港湾空港技術研究所), 太田誠司氏 (電源開発),

<新規にオブザーバーに追加>

清水隆博氏 (日本工営), 山原康嗣氏 (中電技術コンサルタント)

### ② これまでの WG の活動継続について

- ・ 閉鎖性水域研究 WG, 温暖化適用 WG, 動的総合土砂管理に関する WG については継続, 樹林化 WG については終了することとなった。

### ③ H30 年度研究集会について

・ 吉川委員 (代理 : 大槻幹事) より, H30 年度の研究集会について資料をもとに提案があった。審議の結果, 開催場所については北見および道東地域での開催が了承された。日程については継続審議することとなり, 水工学講演会ならびに水工学論文集の提出期限の日程の状況を鑑みて, 5 月末~7 月開催を軸に再検討する。また, 地方からでも前泊せずに参加できる日程を検討して欲しいとの意見がなされた。

### ④ 今後の活動について

以下のような意見がなされた。

<閉鎖性水域について>

・ 水質の諸問題については関係者が多岐に渡ることから情報の共有がなかなか進んでおらず, 関連する技術の発展や展開が進まない現状がある。そこで, これについてのアンケートを実施し, ジョイントシンポジウムの前日 (11 月 6 日) にその結果にもとづいた WS を開催する予定としている。(鶴田泰委員)

<樹林化問題について>

・ 樹林化についてはこれまで WG で行ってきた植生からの視点から, 新たに土砂問題としての観点から取り扱うのが良いのではないか。(川村委員)

・河道土砂管理と樹林化問題については密接な関係性があり，樹林化を促進しないような河道掘削法などについて現場のニーズがある．その一方，基本的メカニズムについてはある程度明らかになっていることもあり，研究という側面でどのように展開するかは難しいところもあるのではないか．（大石委員）

・こうした問題を取り扱う上では河川部会との連携を強く取っておく必要があるだろう．（赤松委員）

・湖沼の水草異常繁茂の問題についても，同様の観点がある．（矢島部会長）

<UAV について>

・UAV については，あくまでも研究の一手段であるため，我々の分野において WG を立ち上げて深掘りしていくような内容ではないかもしれない．他分野を含めて WS などで議論するのは大いに良いと思う．（赤松委員）

### 3. その他

・書籍「環境水理学」の売れ行きについて，確認するよう依頼があった．

→ 26 年度 387 冊，27 年度 228 冊，28 年度 48 冊，29 年度(8 月末現在) 65 冊 計 728 冊

・石塚委員（河川部会交流委員）より，河川技術論文集の締切が 1/26（金）17 時となる見込みであることが報告された．

・新しく委員となった川村里実氏（寒地土研），細川真也氏（港湾空港技術研究所），オプザーバーとなった清水隆博氏（日本工営），山原康嗣氏（中電技術コンサルタント）より挨拶があった．

以上